

ソーシャル・キャピタル創出におけるNPOの役割

【事例の背景・概要】

信頼やつながり、ソーシャル・キャピタル、様々な経済的・社会的活動、（Putnam）創出するNPO、市民活動、しかし、実際にNPOがどのように、どのようなソーシャル・キャピタル創出にむける視点や手法、明確の余地がある。本稿では、を比較分析し、創出にむける

タイトル
フォントサイズ 11 太字
日本語：全角、MSゴシック
英数字：半角、Arial
タイトルには■をつける。
※タイトルは左揃え
※執筆者は改行して右揃え、姓名の間は全角スペース

見出し
フォントサイズ 10
MS明朝、
見出しには【】をつける。
本文との間には行間スペースなし。

【主たる成果】

まず、ソーシャル・キャピタルとNPOとの関係に関する理論的レビューを行なった。次に、NPOがどのような視点や手法を用いて、どのような活動を通して、ソーシャル・キャピタルを形成しているのかについて、ソーシャル・キャピタル・インク（Social Capital Inc.）（アメリカ）、全国ボランティア団体協議会（The National Council for Voluntary Organisations (NCVO)）（イギリス）、ウィール（The Wheel）（アイルランド）という、ソーシャル・キャピタルの形成や啓発をミッションにしている団体や、ソーシャル・キャピタルの視点を取り入れた活動やアドボカシーを行なっているNPOの取り組みを比較分析した。この3つの団体を取り上げたのは、団体や事業の目的・視点として、ソーシャル・キャピタルの形成を明確に打ち出している、現時点では数少ない団体であるためである。ソーシャル・キャピタル・インクについては、2006年5月に実施したインタビュー調査を、全国ボランティア団体協議会およびウィールについては、2005年2月に筆者が参加した内閣府経済社会総合研究所（2005）の欧州インタビュー調査を各々踏まえている。

大学院生の場合は、課程まで明記してください。

〇〇 〇〇（〇〇大学）

【今後の課題】

NPOには、個人、組織、地域、国という、様々なレベルにおいて、ソーシャル・キャピタルを創出する役割がある。個人レベルでは、個人のボランティアや寄付を促進し、参加の機会の拡大を提供する。組織レベルにおいては、自らの組織内においてソーシャル・キャピタルを構築できる

本文
フォントサイズ 10
日本語：MS明朝、英数字：Times New Roman、半角
句読点：（【全】句点）。（【全】読点）
見出しは番号（(1)、(2)）あるいは「・」を使用。
※丸数字は使わないこと。
※ワードの脚注機能は使わないこと。

今後NPOがソーシャル・キャピタルを創出するためには、各団体の目的や機能に即してソーシャル・キャピタルの意義や枠組みを議論し、ソーシャル・キャピタルの視点を団体の戦略計画や事業に反映させることが重要である。さらに、団体の取り組みによって、地域におけるソーシャル・キャピタルがどれくらい構築されたかということ、大学との連携などによりコミュニティ調査を毎年実施したり、組織内のソーシャル・キャピタル構築などを評価することも望まれる。

【参考文献】

- 内閣府経済社会総合研究所（2005）『コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告』（<http://www.esri.go.jp/jp/archive/hou/hou020/hou015.html>）
- Nishide, Yuko (2004) Changes in social capital and the roles of nonprofits in Japan, paper prepared for the 33rd Annual Meeting of the ARNOVA, November 18, 2004.
- Putnam, Robert D. (2000) Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community. New York: Simon and Schuster.

*フォーマットを変更せずにA4で1ページに収まるように作成してください。

ページ設定
段組：2段組
文字数：24
行数：44(タイトル含む)
余白：上下30ミリ 左右20ミリ

※ 本サンプルは体裁・レイアウト参照のために作成したものであり、見出しと本文はダミーです。見出しは、「B 実践報告」の内容に合わせて適宜設定してください。